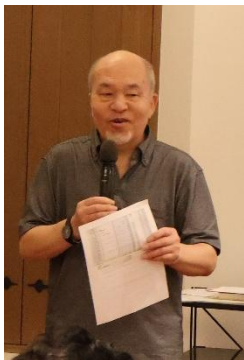


タンゴ音楽の集い 開催

穴戸 和郎

梅雨明けも間近な去る 7 月 1 日火曜日。夕方 6 時半より、第 44 回「タンゴ音楽の集い」が銀座ブロッサム ローズの間で開催されました。

今回は、ロンドン大学講師の麻場友姫胡（あさば・ゆいこ）氏をお招きして、お話をして頂けるという特別編です（麻場先生の略歴を巻末に掲載）。



まず、当協会理事の飯塚久夫氏からの説明で、タンゴの黎明期からの歩みを概観しました。当初「下品だ」と眉をひそめられたタンゴ（特にタンゴダンス）が、徐々に洗練され、市民権を得て「文化」にまで昇華される過程は興味深いものがあります。

その後、いよいよ麻場先生の講演に移りました。タイトルは、「海外から見た日本におけるタンゴ文化について」。講演では、「優美と野卑」「Sentimiento：感情表現」などのキーワードを散りばめ、日本におけるタンゴ文化の位置づけを客観的かつ体系的に語り尽くされました。説明資料は要所要所に映像も含める立体的な構成となっており、中でも往年の名タンゴ歌手、阿保郁夫（あぼ・いくお）氏が海外 TV 番組のために和装で熱唱する映像には参加者一同引き込まれました。

バイオリニストとしても活躍する麻場先生から生演奏の特別サービスも飛び出して、会場は大盛り上がりでした。



麻場氏略歴（明治大学 HP より転載）

麻場 友姫胡（Yuiko Asaba）

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）音楽学部講師。ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ校音楽学部博士課程（Ph.D.）修了。ラテンアメリカのポピュラー音楽とアジア太平洋地域におけるその流通に焦点を当て研究を行っている。

主著に、単著 *Tango in Japan: Cosmopolitanism Beyond the West*（University of Hawaii Press, 2025. 米国音楽学会 AMS 75 PAYS 受賞）のほか、*Ethnomusicology Forum*、*East Asian Journal of Popular Culture*、*Cambridge Companion to Tango* などでの査読論文がある。米国民族音楽学会（SEM）幹部メンバー。また、タンゴ・バイオリン奏者でもあり、ファン・デ・ディオス・フィリベルト・アルゼンチン国立管弦楽団、日本ではオルケスタ・アストロリコなどの演奏者メンバーとして活動した。



（ししど かずろう：当協会常務理事）